

川俣の村山さん

ホタル 子ども照らして

エイジレス
ふくしま



自宅でホタルの餌となるカワナナなどを育てる村山さん。「私たちは自然の中に生かされている」と生き物や自然に愛を注いでいる

▲10月18日 福島民友新聞掲載

ホタルが見られるところが減っていますが、みなさんは見たことがありますか？



記事を読んだ感想や意見を書いてみよう。

(When) いつ

(Where) どこで

(Who) 誰が？

(What) 何を？

(How) どのようにしてホタルを増やした？

(Why) なぜこのプロジェクトを進めている？

川俣町の村山英一さん(67)は収集家のごとき、カワナナやウナギ、ナマズなど動植物を自宅で育てている。2019年からは町内のまちづくり団体「聚溪会」の一員として「ホタルプロジェクト」を推進している。

自然を感じる町に

きっかけは「町の子供たちにホタルを見せてあげたい」との思いだ。子ども頃から魚や自然が好きで、町内を流れる広瀬川で

失敗にもめげずに

行き詰まりかけていた当時、町内飯坂地区のキャンプ場「峠の森自然公園」でホタルが生息していることを聞き付けた。ホタルを飼育して放流するより、ホタルの生息地を整えて繁殖させる方針に変更。自宅で育

魚つかみなどをして育った村山さん。自宅前の川でホタルが観賞できることもあり、子どもたちに自然を感じてもらおうとプロジェクトが始まった。開始当初、ホタルはなかなか育たなかった。20年に自宅の水槽で飼育したものの、幼虫は生まれず。めげずに取り組んだ21年は50匹ほどの幼虫は誕生したが、成長したのは5匹ほどにとどまった。

「町内でこんなにたくさん見られるとは」と驚きを隠せなかった村山さん。現地では至る所にホタルが飛び交い、鮮やかで、そしてはかない光を放った。「来年はどうなっているか楽しみ。気長に見守っていきたい」。自然の環境のまま育てることをモットーに、ホタルの来年の姿に期待を膨らませている。(南哲哉)

記事を読んだ感想や意見を書いてみよう。